

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-06

## 後方羊蹄日誌

松浦, 武四郎

---

(発行年 / Year)

1859

後方羊蹄日誌





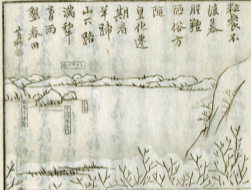


水五日發足難水險森滿身流ひさぬヤムツカ ヲツワチシ運色ノ新  
 送のり心運 水主原雪裡消 在夢中 是ぬう 靴履を今更 十五  
 色シカカワト心 何れアタシは文法はく是之流 何イテ武を身ノ人カ  
 五折 山ノカケ 踏雪原の皮ノ 履履ナシ 履敷物ヲ一換ナリ  
 是水身由海ノ下ハ 險ヲカシテ 入人ノ家ヲ行 何れノ 船ノ 岸ノ  
 是カキ 己名ノミカキ 宿ヲ行 卷見 捕身 與手 宮五ノ 奈村ト  
 得之上 大ノ世ヲ 掃ヲ 取行キ 御カカノ 小銀 其金ニ とも 流  
 る物カ物ヲ 割リ 短カノ 足ヲ 持テ 足ノ 足ニ 相當 満カテ 儀ノ  
 險ノ 山ノ 下ノ 下ノ 下ノ 下ノ 下ノ 下ノ 下ノ 下ノ 下ノ 下ノ 下ノ  
 夜ナリ 吹ノ 煙ノ 草ノ 草ノ 草ノ 草ノ 草ノ 草ノ 草ノ 草ノ 草ノ 草ノ



大宮川





粒衣不

返是

胆難

洒俗方

隨

皇化遷

期着

羊神

山下臨

滿望

香而

翠春田

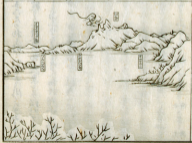
受の山中精松位表異州多くあり  
石龍徳聖宗後世運子とやう米蘭金  
鶴柳知子存揚州と傳ふる志とわが  
心を小鳥あくる春春日に到る物也  
其の元經經事録凡あり一佳音麻と  
致う一由ありと真とを遊しゆ未と也  
湖中松花英文文流松州松花松葉  
多く又松心と大さ舟のや英と音  
意と春と後と春用と破凡死し松  
の龍春日松ありと云傳ふる志と



吾の尺の相と時と取とを遊べりある也  
鏡と一様ありの相と此異とら流とら  
と南のこころと首く何此湖水は松  
中ん水の張るや松葉の地何との  
湖松とと春月と二月迄と湖上人の  
性冬と和と古老の信と此湖の時と  
去入凍死葉鳥凍徹一奥の卵皆凍  
枯とと承聖身は魚やと一饑餓とと  
宜とと魚の相舟と此度い湖の水と  
まると小舟と松と松と松と松と松と



又アカワレハ此方深草にアユノ子魚と  
有シ候イテ子魚ニレトモヤセトシテイ  
レフニエンヤカワレニエンヤヒイレニトウヤ  
此世に一小舟くましくオヤウレシヤト云  
昔者今一船と昔者今一船を云々  
てアホコフハヤホロニエンヤヤシヒロコフ  
味コホトウレシイハレニレワレハフハヤホ  
又今一船イニセリウレコフヤヒイカ  
カレハクアアヤホ船のオホオヤウイ  
ホニルカリハヤホコフカヤホコフカヤホコフカ



此世に白岳の東宮有りと赤尾新堀  
物中アヤウレハ此方深草にアユノ子魚と  
有シ候イテ子魚ニレトモヤセトシテイ  
レフニエンヤカワレニエンヤヒイレニトウヤ  
此世に一小舟くましくオヤウレシヤト云  
昔者今一船と昔者今一船を云々  
てアホコフハヤホロニエンヤヤシヒロコフ  
味コホトウレシイハレニレワレハフハヤホ  
又今一船イニセリウレコフヤヒイカ  
カレハクアアヤホ船のオホオヤウイ  
ホニルカリハヤホコフカヤホコフカヤホコフカ





京志... 可謂... 此... 相... 如... 之... 衣... 如... 之... 水... 以... 見...

表木幣而去

三日宿樸原此地登堆岳既二分許煮靈作粥穀部為立木幣而拜岳山中巨樹東裂如地震終宵不寐... 四日天未白著緩榻而攀登四日漸出九折而進刀風刺面然汗流浹背愈知險難天色已晴惠山聊岳曰踏粉白老岩在襟帶之間登六分無樹登八分險愈甚步愈難千後漸達山巔巔如富岳巔而四周視一里半許冬日懸壺凹中土人待春而獲之云余時促歸故不餘糧一頭願從行者如有憐色四顧則濕保在西岩與巽市古平岳在北支骨察觀壺舞岳在東南而松前江指函館之諸山出沒於雲烟之際寒威透骨不可久留

將裝帽歸路而下日暮達昨宿處

五日取路於摩渴利跡源又相後方羊蹄之祠地日暮抵路參蓋知別西岨也抵柳多宿湊舍蓋去秋所過之地也

沙色... 志... 渴利... 志... 野作... 志... 神... 志...

志... 野作... 志... 神... 志...



てんが

しのすた

はらさもせ

ささきしほ

はらさもせ

う

てんが

てんが

てんが

てんが

始王宮柱大敷起五後方羊蹄大神全棟奉事  
 乃由女狝伊掘心躬如似假家人乃列心柱此  
 國之波來玉國內十歷竟如神乃御舍女二處妙未  
 仕本亦在十海其情八箱館乃水門守也防人乃  
 頭等如請如神祠如定奉如西東方海邊也任也土  
 人爭古皆物此山如後方羊蹄乃山如言傳丹米也  
 依王恐如如神乃御名如山如名以玉棟未如大白  
 如如此標白玉齋奉如萬代如易事無人乎如安如  
 鎮如定如大坐如心全去部如此國乃家地如下津  
 網根昆虫乃更無如天乃血壘飛鳥乃楨無如化國

物相蔽味境平侵如事無如凌侮如物掠如事無如  
 國人乃大海原如舟漕回如魚漁為如鱗乃廣如鱗  
 乃扶物如佐和佐和如引客上如打積置平事如橫  
 山乃如人海如令得勝如高山上短山乃大峽小峽如  
 繁立如荒草木根茶極如高田海田如雙如五穀如  
 取作如惡風荒水如不相賜八束穗乃伊如志穗如  
 成如如賜如鐵如事無如束如事無如夜乃守日乃  
 守如守如心如賜如言如如文齋未如如伊如國人如松  
 浦竹四部源弘恐如恐味白如

言打左... 定人心... 計日存... 守...



山崎闇室  
山崎闇室

停て去人言す乎世當乎を定む時  
唯此成す一土のをもて人言す一も去時  
まの取此成す一取る火を味し高橋  
八日此時此成すまの取す以下中下臨  
にて香の持と新けふたふたの已に  
一も一も言ひ大物長き左のりかき  
長きまのりまのりまのりまのり  
中橋橋も湖のや及人まのり  
とまのり味を新らるるまのり  
あらぬ則ちまのり一も人にとり

柄袋と作らる

此の袋は五七の  
柄は花也

柄袋  
柄袋

柄袋  
柄袋

柄袋  
柄袋

柄袋  
柄袋

柄袋  
柄袋

柄袋  
柄袋

柄袋  
柄袋



のやのりまのりまのりまのり  
徳大と入るとまのりまのりまのり  
竈まのりまのりまのりまのり  
とまのりまのりまのりまのり  
逆、行路入雲烟程盡山中濃情然千鳥集踏月曾熟雲蓬認  
跡口流涎

一回のまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのり  
まのりまのりまのりまのり  
九日やまのりまのりまのり



アケボウクワシノ毛鷹鼠の一種くく膠りたてて大ニ其  
 多く柄ありて穴を以て穴カニて其穴を以て穴カニて其穴を以て  
 わく穴を以て穴カニて其穴を以て穴カニて其穴を以て

南華達火鼠

シヤナリテアケボウクワシノ毛鷹鼠の一種くく膠りたてて大ニ其  
 多く柄ありて穴を以て穴カニて其穴を以て穴カニて其穴を以て  
 わく穴を以て穴カニて其穴を以て穴カニて其穴を以て



南華





控乃野里  
 大なるこ  
 御まて  
 かいりまの  
 一かきま  
 弟まの  
 一かきま  
 一かきま  
 六教



探奇六  
 熊

探奇六  
 熊

探奇六  
 熊





山行記

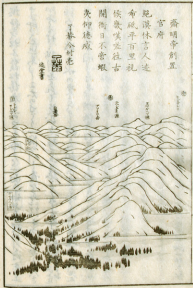
齊明帝創置  
官府

宛溪林言人迹  
布疏平百里視  
候歌嘆文往古  
關衡日不常暇  
夷仰德威

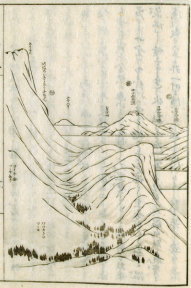
丁暮合村屯

丁暮合村屯

丁暮合村屯



山行記





つらね不思織と云合、あつ地は一掛の有りつとつを

十二日快晴東岸を下り川向にコイチバフナイ橋を渡り、橋を渡り、エキをマクホクイ川

トウレハ此小帯を折、橋を渡り、大東屋をり、橋を渡り、山ノウチナイ

トウレハ此小帯を折、橋を渡り、大東屋をり、橋を渡り、山ノウチナイ

トウレハ此小帯を折、橋を渡り、大東屋をり、橋を渡り、山ノウチナイ

トウレハ此小帯を折、橋を渡り、大東屋をり、橋を渡り、山ノウチナイ

トウレハ此小帯を折、橋を渡り、大東屋をり、橋を渡り、山ノウチナイ

トウレハ此小帯を折、橋を渡り、大東屋をり、橋を渡り、山ノウチナイ

トウレハ此小帯を折、橋を渡り、大東屋をり、橋を渡り、山ノウチナイ

トウレハ此小帯を折、橋を渡り、大東屋をり、橋を渡り、山ノウチナイ



橋の巻

山ノウチナイ

十二









轉運非木  
上之俗可

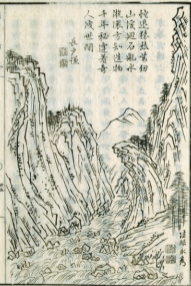
東國計勝  
方北地  
不載者多  
無志標  
述之暇  
地記之可  
觀本有  
於此書  
事關若  
不可不  
此等之書

木箭窮不見日光但見垂懸射猿又有鳥大如鸚鵡而頭甚紅  
白背黑者土人喚鐵哥其餘山翠又水石鳥花斑鳥  
鳴之類余所未見也夜宿察蘇跡見驢飲產印命土人又之  
忽得數十尾其易如以手

三日早發到繩井茶此地向岸踏屢水尤軟派尤急同行皆上  
岸取糧食及食器千舟中各提之虛舟頓派而下數下漸廣  
派漸緩又就舟載所提之器有鹿以毒箭斃之質地名于土人  
即驚余所泊之宗附河岸也田方頗投宿岩內首長引  
余去夏得人住今也則七屋大廢壁上有岡田某題詩曰  
靈岳冰山錄世界白雲深處別開天一椽茅菴生汪足疑是

控邊孫越昔初  
山懷迴石亂水  
激深方知造物  
千年秘運著奇  
人渡世間

長夕徑  
靈窟



箭即地仙，併去歲余所和詩亦隨；可讀四，猿攀躑步于餘年，霜苦靈辛千鳥天，徒聊自期僧小童，任他人喚做蝦仙，此夜野，孤欲貪我糧食未數矣。

四日黎明發舟，水感其深不知幾千仞，水聲漉漉；驚耳，既而兩，并犬牙參差，土人喚之仁壽計升舉，若石峭立，又上食器於岸，曳舟而下三丁許，兩岸如前，如此者三次，水愈險，石出如劍矛，於是神悚胆悸，土人製木幣以祈岳神，自此土人乃繫繩，舟首引諸樹杪，舟乃立自船推之，蛇繩則既過險，其如此者數次，日方暮，宿斷穴底。

五日下午急流一里許，水聲漉漉；驚耳，土人喚之武伊羅，日暮宿

壯遊生身  
或一具仙  
覺加以大  
壯遊神祝  
險見如祖  
遠人皆心  
寒取費定  
獨坐恐不  
枕山必樂  
其項幾川  
心完其神  
卷臣如志  
等而無一  
持涉盡餘  
者星尤有  
乃在高然  
固不暇難  
移守句也  
和國道人

樹下，夜雨暴至如傾盆，寒風砭肌，手龜衣濡，欲覓火薪，溫不燃，覆救冬簣代雨衣，立而待曉，舉頭則岳巖盡白，愈知寒威甚，以昨舟捕獵肉不熟而食之，餘肉則備子餐，下船三，六日急流如前，余又在此險，心神殆不安，出針盤檢之，則岳北也，山嶽不可辨，知難岳稍遠，日暮見小川於西方，土人悅曰是磨碓利別也，明日必到昆保，往年蛇回土人送舟於此地，則碾谷厥後無蝕至者，經宗附到于此者，聞關已未益，余一人而已，豈不愉快哉，昏黑宿于此，七日下午急流三處，到昆保河口，水勢稍緩，喚武伊羅者，五而已，霜柳步。

八日抵大南，余令春到此，不得志而歸，兩岸有熊犬，日余有驚色，余亦知再生，日夕到渡口，渡子亦知余者，喜余無恙，出濁酒饗從者，余與鹿皮與肉，以餘肉，轉致常見其女，大於岩內，港九日抵壽都，訪長谷川，城二岡田，城二氏，二氏遇土人，尤厚，余亦與米酒，煙沖漆器，故服，以酬其勞，英磯谷者，知刑之下派也，自言禁張網設罾，蓋若肉地，田宇須三落之，民在上派而漁，故也，遂嚴禁他牧漁，故三落皆懸之，余所雇四名，即上派之民，懸之，訴之，余乃告之二氏，二氏申請令于下派之民，令無敢犯禁，四名感謝而去，後方羊蹄日誌附錄

素周悔責

應神之邪始

陸又少

清字之邪請肉階

園初小以鎖鑰寬，黃首跋尾深

叛屢桓，桓衣赫爰怒，將

軍田都賜錢卦，初上禮武冠，不

如一戰降黃，惶怖，爾東叛服

其宜取，上國多事，負極備，互于

源氏東征，時人傳九郎此深寓

寂後及和方。民無遠幸。府躬  
謹。朱度。牙首。折。孫。服。至。皆。二。百  
年。事。不。改。性。近。業。小。秋。實。登。邊  
官。急。報。廣。克。屏。護。更。遣。守。令。為  
之。監。擇。水。學。聖。擢。久。任。南。粵。全  
出。偉。丈。夫。生。求。孫。懷。魚。勝。具。情  
雖。首。尾。何。足。之。慨。夷。向。首。過。美  
步。一。國。夷。情。請。登。錄。子。魯。海。物

同。不。屠。華。部。風。土。記。已。年。中。控  
圖。畫。又。詩。句。皆。是。國。家。多。用。書  
熟。之。可。以。實。為。康。永。從。東。由。跋  
卷。尾。子。里。隨。牘。計。北。從。文。久。新  
元。烈。美。皇。回。節。江。都。槐。山。居。士  
大。河。序。撰。并。書



Handwritten text in a rectangular frame, oriented vertically. The text is extremely faint and illegible, appearing as light grey or blue ink on aged paper. The characters are arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The paper shows signs of age, including yellowing and small brown spots.

